

一誌一句(受贈誌より)

米田 透 抄出

このわたし半分あの世燕去る	(W A)	岸本マチ子
顔無しのコロナわがもの顔に夏	(海 原)	安西 篤
酔芙蓉そこから夢のとぶや飛ぶ	(秋)	佐怒賀正美
七月場所升席に客ひとりづつ	(初 蝶)	中山 和子
栗拾う仏陀といえど素手素足	(鷗 座)	松田ひろむ
サンドレスの膝に子猫の眠りけり	(あかざ)	池田恵美子
少年に沈まぬ夕日かぶと虫	(好 日)	高橋 健文
音に音重ね崩るるはたた神	(獅 林)	的場 秀恭
来し方をゆるりと並べ土用干	(顔)	川村智香子
キャンパスに散り放題の银杏かな	(香 雨)	片山由美子